

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



例年ならそろそろ梅の季節なのに、今年は開花が遅れているようですね。北国からは雪深いとの便りも。そんな中、サラリーマン川柳が笑いを誘います。妻の言う「うちのルンバ」は 俺のこと。にわか医師 問診しあう 同窓会。「辞めてやる！」会社にいいね！と返される、などなど。辛いことは笑い飛ばしてしまいましょう。さ～て今月のメッセージは、石村栄治先生からです。

幹事からのメッセージ

「ビタミンD研究との関わり」

大阪市立大学大学院医学研究科 腎臓病態内科学
石村栄治 先生

腎臓内科で私は、光顕・蛍光・電顕の腎病理からスタートして、マニアックに腎生検(当時はエコーと14Gツルーカーカット針の職人芸に悦にっていました)、腎炎、ネフローゼ症候群を主にしていましたので、当初はビタミンDには全く興味を持っていませんでしたし、しいて言えばビタミンDは患者の印象でした。整形外科から腎不全悪化症例のコンサルトを受けた際、高齢者でアルファロール1μg投与されており、高カルシウム血症(Ca 12mg/dlぐらい)により腎不全が悪化した症例であり、腎臓にはビタミンD投与は好ましくない、面白くない、と感じていたものです(今は、腎不全患者にアルファロール0.25-0.5μgを投与すれば、CKD-MBDに対して安全かつ有効な治療手段と考えています)。

米国留学中は培養メサンジウム細胞の細胞外基質産生の免疫化学、遺伝子発現を検討しておりました。帰国後、執念をもってすべての研究をビタミンDに関連させておられた森井浩世教授に、「ビタミンDでメサンジウム細胞を刺激したらどうなるでしょうねえ?」、といわれ、見込みのない研究だなあ、と思いつつも実験を開始しました。Scatchard解析でメサンジウム細胞にビタミンDレセプター(VDR)が存在することを確認したときは、ヘー、と思ったものです(VDRはubiquitousに存

在するので現在では当たり前ですが、尿細管細胞でなくメサンジウム細胞にVDRがあることに当時はびっくりしたものです。ビタミンDによる増殖抑制効果のデータとともにアメリカ腎臓学会にだけは発表しましたが、当然論文にはなりません。その後、メサンジウム細胞におけるビタミンDと細胞外基質産生の研究を続けましたが、私の「Vision and work hard」(ノーベル賞山中伸弥教授の格言)が乏しかったのか、まったくの空振り、徒労でした(教授提案ではありましたが、この研究は嫌になり、約1年でやめました)。

その後は保存期腎不全患者のビタミンD代謝(Kidney Int誌掲載)、透析患者のオキサロールパルス治療の副甲状腺体積との関連の研究(白鷺病院奥野仙二先生とNephrol Dial Transplant誌掲載)など臨床研究に携わってきました。その間、アメリカ腎臓学会ではビタミンDの古典的作用(骨、Ca、Pへの作用)以外の新しい作用(免疫、細胞分化、抗腫瘍作用など)が年々注目されていました。教室の庄司哲雄先生(Nephrol Dial Transplant誌掲載)他、「ビタミンDと生命予後が関連する」との報告が全世界からいくつかなされて興味が増したところでした。保存期腎不全ではどうだろうなあ、と考えていたころ、透析患者でJ-DAVID研究がスタートしました。J-DAVIDの研究がPositiveに出るか(そうならすごい!)、あるいはそうでないかも(そうでなかったことの解析をする意義がある)、数年後のデータ解析結果に興味を強く持つところです。



最近の文献から

血液透析患者におけるコレカルシフェロール補充に対するCa吸収の反応

Calcium Absorption Response to Cholecalciferol Supplementation in Hemodialysis

Armas LA, et al. Clin J Am Soc Nephrol. 2013 Feb 14 (online)

【ポイント】血液透析患者50例において、週に20000単位の天然型ビタミンD(コレカルシフェロール)を12~13週投与し、前後でカルシウム吸収を調べた。25(OH)Dは14.2 ng/mlから49.3 ng/mlに、1,25(OH)2Dは15.1 pg/mlから20.5 pg/mlに上昇したが、Ca吸収率は12%から12%で変化はなかった。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23411428>

最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(2月25日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	932	919	803	639	441	315	171	61	11
今月 (前月比)	976	932 (-)	919 (-)	804 (+1)	660 (+21)	468 (+27)	342 (+27)	188 (+17)	87 (+26)	26 (+15)

内容確認書（クエリー）回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1124	769	609	608	507	284	220	77	37	976	124	18	72	5425
回収	1124	758	587	562	389	246	174	56	15	909	113	17	53	5003
回収率 (%) (前月比)	100 (-)	98.6 (+0.7)	96.4 (+1.3)	92.4 (+1.6)	76.7 (+4.9)	86.6 (+5.1)	79.1 (+3.0)	72.7 (+1.3)	40.5 (-)	93.1 (-0.5)	91.1 (-3.0)	94.4 (-)	73.6 (+4.2)	92.2 (+1.0)

J-DAVID事務局からのお知らせ



共同研究費(2012年分)のご請求を締め切りました

「共同研究費 振込請求書(2012年分)」のご請求は2月末日をもって締め切りました。ご請求書に基づき、共同研究費を3月末までにご指定の口座にお振り込みいたします。

J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



【再掲】18ヶ月観察までの症例報告書をご提出ください

2013年1月21日時点で、全登録症例の18ヶ月までの観察目安日が経過しております。未提出の症例報告書があるご施設様は、お早目にご送付くださいますようお願いいたします。2012年6月および12月に、内容確認書の発行をもって未回収症例報告書の提出依頼をしておりますので、お手元に残っている場合は速やかにご確認ください。

第6回イベント評価委員会を開催いたします

3/22(金)に第6回イベント評価委員会を開催いたします。この前後に、重篤な有害事象(イベント報告含む)について情報の追加提供をお願いすることがあります。ご協力よろしくお願ひいたします。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ(<http://j-david.info>)は、現在改修中です。ご利用の先生方にはご迷惑をおかけしております。3月初めごろリニューアル・オープン予定ですので、お楽しみに！